

No.29

明日への扉

あくなき研究で より質の高い牛を！

さかもと たいち
坂元 太一 さん



雌牛に精液を注入し受胎させるのが人工授精師であるのに対し、受精卵を雌牛の体内に移植して受胎させるのが「受精卵移植師」。農大での研究テーマは、「受精卵移植師」の資格取得を目指して設定した。



平成9年鹿屋市生まれ。鹿屋農業高校畜産科を卒業後、平成27年鹿児島県立農業大学校畜産学部肉用牛科に入学。今年3月同大学校を卒業し、現在、北海道中川郡豊頃町の生産牛農家の農場で研修中。2年後は実家の「坂元種畜場」で就農する予定。(20歳)

実家は曾祖父の代から代々続く種畜場なのですが、小さい頃から家の手伝いはほとんどしたことがありませんでした。進路もあまり考えていなかったのですが、中学3年生の時に父からの勧めもあり、鹿屋農業高校に進学しました。

それまで牛にはまったく興味がありませんでしたが、高校生になって初めて牛を引き、世話をしてみてもすぐに楽しいと思うようになり、実家の牧場の手伝いもやるようになりました。また、牛が産まれるまで、肉ができるまでのプロセスを学んでいるうちに、もっと知りたいという欲求が深まってきました。

そんな折、高校3年生の時に、祖父、父と相次いで亡くしたのです。それまで、何気なく、楽しく牛の世話をしていた、家業を継ぐなんて思ってもいませんでしたが、尊敬する2人の大黒柱を失ったことに直面して、就農を意識するようになりました。

高校卒業後は農大へ進学し、在学中は「受精卵移植を活用した牛群改良及び受胎率の要因分析」というテーマでグループ研究を行いました。私は採卵を担当し、牛から受精卵を採取する研究をしました。

採卵作業は難しく、毎日練習を積み重ね、習得するまでは本当に大変でしたが、同じように育てた牛でも

個体差があり、受精卵が数個しか採れない牛もいれば50個以上も採れる牛もいることに面白さを感じました。そして研究の結果、受精卵が新鮮かつ品質が高いほど受胎率が上がることを突き止めました。

その成果を、今年2月に東京都で開催された「平成28年度全国農業大学校等プロジェクト・意見発表会」で発表したところ、最高賞である農林水産大臣賞を受賞することができました。ご指導いただいた先生や仲間たちのお陰であることはもちろんですが、こうして、これまで真剣に取り組めたのは、亡くなった父や祖父のお陰だと思っています。

実家には、種牛6頭、繁殖母牛150頭、肥育牛1,400頭がいますが、夢はこれを2倍以上に増やすこと。このため、現在は、北海道で規模拡大を実践している若手の生産牛農家で修行しています。

2年後には帰郷し、実家を継いで、祖父も父も取得しなかった「受精卵移植師」の資格を取り、受精卵を活用した受胎率の向上について、さらに研究を深めていきたいです。そして、その成果を地元への貢献につなげていけたらと思っています。

 **FMかのや** (7・2MHz)
4月24日(月) 9時5分から
坂元 太一 さんが出演
(予定)